

接触場面の「自由会話」と「対話的問題提起学習の話し合い活動」における会話参加の様相

— 会話参加上の課題解決力を育成する活動デザインに向けて —

岩田 夏穂

学位取得年月：平成 20 年 3 月

取得学位名：人文科学博士

学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】 会話参加の対称性、共生言語、会話教育、協働による課題解決、イニシアチブ・レスポンス分析

【要旨】

多言語・多文化化が進む日本では、多様な背景を持つ者同士が対等な社会の構成員として共生するためのコミュニケーションの力が必要である。本研究では、会話教育の立場から、そのような力を「接触場面において、母語話者と非母語話者が会話参加上の課題（発話順番が取れない、理解上の齟齬や意見の対立を処理できない等）を協働的に解決する力」と考える。その育成に有効な活動は、母語話者と非母語話者の対等性が前提となる。そのために、活動を媒介する日本語を母語話者の規範的日本語ではなく、内容を伝えあう「共生言語」として捉えることが必要である。

本研究は、このような活動デザインと実践に向けて、接触場面の会話活動における参加の特徴を明らかにすることを目的とした。そのために、参加者間の対等な関係構築の可能性のある「自由会話」と「対話的問題提起学習の理論に基づく話し合い活動」を対象とし、やり取りにおける参加者間の対等性の記述には、参加の対称性を目安とした。さらに、先行研究の検討から、母語話者による非母語話者の参加への配慮と対等性のバランス、多人数会話で非母語話者がやり取りに入れないこと、話し合い活動で非母語話者の問題提起が共有されない等が、対象とする活動の「会話参加上の課題」となりうることを指摘した。

会話データを分析した【研究 1】～【研究 4】では、発話連鎖に注目するイニシアチブ・レスポンス分析を用いて参加の様相を量的に分析し、その特徴を会話分析の手法によって質的に分析した。【研究 1】では、留学生と日本人学生によるペア 5 組の自由会話を対象に、ターン配分パターンに注目した。その結果、参加の対称性には、「共・成員性」を示す共通経験や情報の提供、「参加を配慮する者・される者」の関係が固定的かどうかという点が影響していることがわかった。【研究 2】では、上記の 5 ペアのうち、非対称的な参加が対称的になった 1 ペアを取り上げ、変化の過程を記述した。そして、参加者双方から共通基盤構築を志向したアイデンティティ・カテゴリーの交渉の展開を明らかにし、カテゴリーの局所的な選択が参加の変化のきっかけとなることを示した。

【研究 3】【研究 4】では、次の発話順番が保証されないという点で二者間と異なる三者間会話を対象とした。【研究 3】では、留学生 1 名と日本人学生 2 名の初対面を含む三者間の自由会話を分析し、ターンの宛て先の操作によって、非母語話者の参加を常に優先する日本人学生の参加の管理のし方が明らかになった。非母語話者の参加の優先は、非母語話者が会話から外れることがないため、3 人の安定した関与を可能にする。しかし、過剰な配慮は、非母語話者が対等な参加者として扱われていないことの現れである可能性を指摘した。【研究 4】では、対話型問題提起学習に基づく共生日本語教育実習での話し合い活動を分析し、母語話者参加者による非母語話者参加者への連帯と共感という一方向的な働きかけが非母語話者の発話機会を奪っている現象を明らかにした。そこから、活動デザインと実践では、話し合いで一見協動的に見える参加者の関わり方が他の参加者の参加を妨げている可能性があることに留意する必要性を指摘した。

以上の各研究の分析結果を踏まえ、具体的な活動手順として、会話活動を行った後、参加者がやり取りでの自身の振る舞いを振り返り、内省することを組み込んだ試案を示した。

(いわた なつほ)